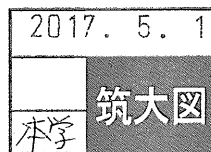


日本語と日本文学 第61・62号 : 標題紙, 目次, 奥付

雑誌名	日本語と日本文学
巻	61・62
発行年	2017-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2241/00146122

日本語と日本文学

第 61・62 号



パネルディスカッション「ことばの翻訳・文化の翻訳」

日本における漢詩の注釈・翻訳

——「訓読」のちから、白居易「李夫人」を題材として—— … 谷口 孝介 (1)

与謝野晶子訳にみる若紫巻・知覚のドラマ

——近代作家たちの「源氏物語」翻訳—— … 馬場 美佳 (11)

小学校現場における翻訳教材の指導の実際

…………… 阿部慎一郎 (19)

『賀茂保憲女集』の長歌の特質

——女性が長歌を詠む時—— …… 渦巻 恵 (29)

日韓大学生随筆の対照分析

——「手」をテーマにした随筆を中心に—— … 文 智暎 (左 1)

日本語の「のような」と中国語の列举助詞について

…………… 馮 元 (左 13)

様態・推定表現としての「様子だ」

——ヨウダの史の変遷との関わり—— …… 川島 拓馬 (左 29)

国語教師の評価活動と社会的構成への連絡

…………… 飯田 和明 (左 47)

平成29年 3 月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙四十枚（一万六千字）程度。ワープロ原稿の場合は電子データを添えて御投稿下さい（原稿と電子データは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿べ切は毎年二度、二月末日および八月末日です。

一、本誌の論文は、附属図書館の電子図書館システムに登録され、全文データベースとして蓄積・利用されます。

一、原稿送り先

〒850 茨城県つくば市天王台一―一―

筑波大学文芸・言語専攻

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教員および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実には、この三者の構成員の熱意に負うところ

が多であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承下さい。

編集後記

第61・62号合併号をお届けいたします。冒頭に大会でのパネルディスカッションの内容をご紹介していますが、多分野からの同じテーマでの試論はそれぞれの学問分野の特徴を知るうえでも興味深いものがあるかと存じます。その他の論文も、日本古典文学・日本語学・応用言語学・国語教育学と、本学会ならではの幅広い分野からの投稿があり、内容的にも豊かな号になっていると思います。

東日本大震災から6年が経過し、その影響などによる号数の遅延も今号でなんとか回復しました。編集の不手際でここまで時間がかかりましたことを改めて深くお詫び

申し上げます。

また、今後とも円滑な刊行がかないますように引き続き会員の皆様にはふるっての投稿をお願い申し上げます。最近ではメールによる投稿も目立ちますが、メールへのデータの添付のみで投稿完了とすることは、不達の危険性がありますので、かならず、プリントアウトした元原稿と電子データの媒体（USBなど）を事務局宛に郵送でお届け下さいますよう、あわせてよろしくお願い申し上げます。

さらに、本誌もいずれば投稿に際して論文盗作・剽窃チェックのため「[TheNicate]（アイセンティケイト）」での確認の義務化を検討していかなくてはならない状況にあることもお知らせしておきます。

（編集委員長 石塚 修）

平成二十九年三月三十一日印刷
平成二十九年三月三十一日発行

〒850 茨城県つくば市天王台一―一―

筑波大学文芸・言語専攻

編集・発行 筑波大学日本語日本文学会

代表者 矢 澤 真 人

印刷所 第一印刷株式会社

☎〇二八二（三一）一五五一